

ブドウのべと病が平年より多く発生しています

ブドウべと病菌は、20 ~ 24 で活動が最も活発になり、展葉初期以降、降雨が続くと発生が多くなります。また、夏期の高温時にも展葉中の若い葉に感染するので注意しましょう。病斑は、感染してから約 10 日後に現れ、発生好適条件が整うと急激に発病進展するので、発生が認められるほ場では防除を徹底して下さい。

[現在の状況]

病害虫防除所の調査ほ場では、6 月下旬現在発生は確認されていないが、県病害虫発生予察ほ場（園芸研究所内）の、例年発生を見ないブドウ露地栽培防除区で既に発生が認められており、同無防除区での発生量は、葉および果房に平年よりも多く発生している。

向こう 1 ヶ月の気象予報によると、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除対策]

罹病の激しい葉や果房は早急に取り除き、土中深く埋めるなど適切に処理する。罹病の少ない果房は、摘粒の時などに罹病粒を取り除く。罹病粒は土中深く埋めるなど適切に処理する。

雨後の乾燥を図るため、排水の不良な園は、排水対策に努める。

枝の遅伸びや軟弱徒長にならないように肥培管理を徹底する。

薬剤散布は、10a 当たり 250 を目安に、十分な量をかけむらのないよう丁寧に散布する。また、手散布等により園の周縁部にも丁寧に散布する。

薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意する。

防除暦に従って、7 月上旬にアミスター10フロアブル、7 月下旬の袋かけ直後にランマンフロアブルの散布を確実に実施する。特に、発生の多いほ場では、袋かけ前の 7 月中旬に、果実の汚れに十分注意して、ランマンフロアブルなどで追加防除を実施する。なお、薬剤散布に当たっては、使用回数・収穫前日数に十分注意する。